

秘密に苦しむ少女

平成 30 年 10 月 18 日記

6 月下旬、高齢のご両親が来られた。40 歳半ばの時の娘、A 子（17 歳）の進路の相談だった。4 歳上の兄がいるが、大学生で東京に出ている。3 人だけで暮らしているという。

B 高校通信制課程の 2 年次に在籍していたが、先月仲間に呼び出されて集団で殴られ、退学した。本人も高校は卒業したいとのことで、当フォーラムが提携している C 高校通信制課程に編入し、当フォーラムの教室に週 3 日電車で通い、学習し始めた。

そして、少しずつ自分のことを私に話し始めた。小学 4 年の時、ずっと寝たきりだった祖母が目の前で亡くなった。祖母の死に顔には驚いた。自分は寂がり屋と言う。一人の友達を独占しては、逃げられる。そのことで友達が先生に訴えた。分かっている、同じことを繰り返す。小学 5 年の時、家庭科の授業の後、友達に準備室に連れていかれて怒られた。怖かった。でも、納得できなかった。中学生になると、“チクリ魔”と言われた。友達が学校に携帯を持ってきたことを、私の母が電話で先生に言ったとかで。結局、他の子が先生に報告していた。次第に同世代の子たちと付き合うのが苦手になった。笑い声が聞こえると、自分が笑われていると思えてその場を避けるようになった。進学した D 高校で何人かの友達に嘘をつかれ、もう嫌になって B 高校に転校した。

7 月下旬、長野県内で行われた 3 泊 4 日の交流合宿に参加した。30 数名の小中高生、大学生、スタッフが参加した。彼女は大学生リーダーや参加した高校生たちと親しくなって、色々な活動を楽しんだ。最後の晩、交流会を終えた後、彼女が私の部屋に来た。

「すんごくいいリーダーさんちで、参加してよかったです。参加した高校生たちとも友達になってよかったです。」満面の笑顔だった。暫くそんな話をした後、彼女は急に静かに話し続けた。

「先生、私ね、小 5 の夏に、知らない男の人に E 公園の茂みに連れ込まれ、体を触られたんです。ほんとにショックで、体が動かなくなって、何もできなかったです。暫く男の人が怖くて、毎日走って下校していたんです。勿論、親に心配かけたくなって、話せなかった、いまだにだよ。・・・なのにねえ、先生、実はね、私、1 年前、数カ月、援交してたんだあ。お金のために。・・・自分、おかしんじゃないかって、あれほど男の人が怖かったのにね。・・・どうせ、自分は汚れるからって、しちゃったんだあ。・・・あ～あ、言っちゃたー！・・・こんなことがばれたら、彼氏、できないよね。・・・でもね、レイプもそう、援

交だって、女の子もこんなに苦しんでるんだってこと、知ってほしんだ。じ・
せ・き・の・ね・ん、だっけ？・そんな気持ち・・・」